News ファイル　10/1～11/30

◆2009年度家庭の食品ロス3.7%　近年、ほぼ横ばいで推移

農林水産省によると、食べられるのに捨てている食品の割合を示す2009年度の「食品ロス率」が、家庭で3.7%だったことが分った。「近年はほぼ横ばい」（同省）という状況で、消費者が適量を購入して在庫管理するなど、食への意識向上がさらに必要となるようだ。

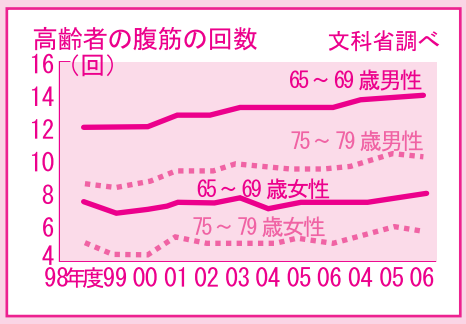
1人1日当たりの食品ロス量は平均41㌘と、前回より1.2㌘改善したが、単身世帯では64.5㌘と6.3㌘増えた。

食品ロス量のうち、55%は調理中の皮むきで食べられる部分などを削る「過剰除去」で、食べ残しは27%、食品を未使用のまま廃棄する「直接廃棄」は18%。直接廃棄の理由としては「鮮度が落ちた、腐敗した、カビが生えた」「消費、賞味期限が過ぎた」が多かった。（10／3）

◆シニア元気　体力が証明

文部科学省が公表した「体力・運動能力調査」によると、お年寄りの体力がこの10年ほど向上を続けていることが分った。健康ブームでシニア世代の運動機会が増えていることが要因のようだ。

98年度と09年度を比べると、腹筋回数は65～69歳男性が11.97回→14.05回、女性は7.41回→8.13回で、70～74歳男性は10.44回→12.12回、女性が5.99回→7.00回。

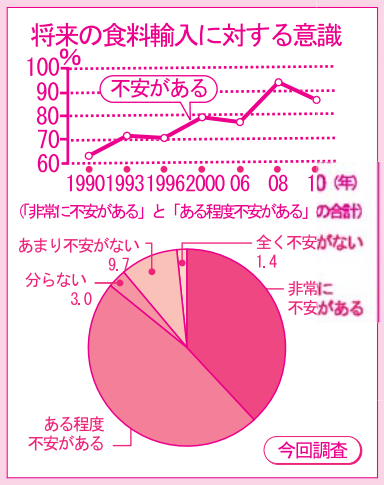


6分間の歩行距離も65～69歳男性が588㍍→612㍍、女性は548㍍→572㍍。70～74歳男性は567㍍→581㍍、女性が519㍍→539㍍に伸びた。

同省によると、60代以上で定期的に運動する人が増えており、体力向上につながっていて、筋力だけでなくバランスや柔軟性の数値も良くなっており、若い世代より体力アップ傾向が顕著としている。（10／11）

◆食料輸入に「不安」85%　国産志向高まる

内閣府が発表した食料供給についての特別世論調査によると、将来の食料輸入に不安があると答えた人の割合は85.9%に上った。穀物の国際価格が急騰し、中国製ギョーザ中毒事件も起きた2008年の前回調査（93.4%）からは低下したものの、依然高水準だ。



買い物などの際に、国産の食材やほぼ自給している米を原料とするパン、めんなど、米粉製品を積極的に選ぶと回答した割合は前回より増えた。

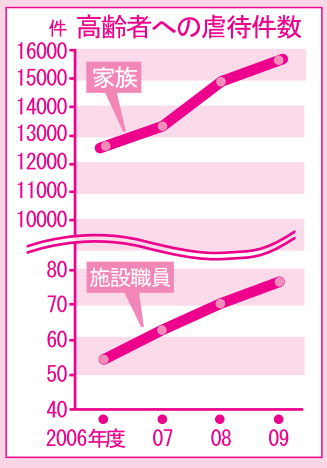
農林水産省は「長期的な傾向として、輸入に不安を感じる消費者が増えている」と分析。食料の安全保障への国民の懸念を国産品の消費に結びつけることが課題だ。

「将来の食料輸入に対する意識」を尋ねたところ、38.2%が「非常に不安がある」、47.7%が「ある程度不安がある」と回答。一方、「あまり不安はない」は9.7%、「まったく不安はない」は1.4%で計11.1%だった。

現在の食料自給率が低いとみる人は74.9%で、このうち自給率向上のため「買い物や外食時に国産食材を積極的に選ぶ」が47.1%（前回41.4%）、「米粉製品を積極的に選ぶ」が32.3%（同24.9%）（複数回答）だった。（10／15）

◆高齢者虐待1万5615件　昨年度4.9%増

厚生労働省の調査によると、65歳以上の高齢者に対する家族からの虐待件数は2009年度（前年度比）4.9%増の1万5615件で、調査を始めた06年以降で最多となったことが分った。虐待による死者も8人増え32人となり最も多かった06年度に並んだ。



特別養護老人ホームやグループホームなど、施設での職員による虐待も8.6%増の76件で最多となった。

厚労省は「実際に起きている虐待の大部分が氷山の一角か、明確には分からない。『虐待は市町村に通報する』という高齢者虐待防止法の趣旨が浸透してきた面もあるのではないか」としている。

虐待の加害者は「息子」が41%で最も多く、ついで「夫」17.7%、「娘」15.2%と続く。

内容別（複数回答）では、「身体的虐待」63.5%、暴言など「心理的虐待」38.2%、財産を取り上げるなど「経済的虐待」26.1%、「介護放棄」25.5%の順。

一方、施設職員による虐待では、408件の相談・通報があり、76件を確認した。（11／23）

地域活動支援センターにＬＥＤ導入

調光器取り付けより省エネに

蛍光灯からＬＥＤに入れ替わった地域活動支援センターの事務所

当協会は、今年三月に策定した『脱温暖化推進計画』に基づいて、CO_2排出量の削減をめざした取り組みを推進しています。　先月末、その一環として地域活動支援センター（脱温暖化センターひろしま）の事務室などにＬＥＤ照明を導入しました。ＬＥＤ照明は、省エネや長寿命などのメリットがあり、現在多くの事業所や家庭で急速に普及しています。この度導入した機種は、少ない電力量で蛍光灯と同等の照度が確保できるものを採用しました。また、より省エネを図るため、ＬＥＤ照明と連動した調光器を取り付け、日射や作業状況にあわせた照度調整ができるように改善しました。これにより、既存の蛍光灯に比べて約二割から五割の消費電力量の削減が見込まれます。

脱温暖化のまちづくりを率先する当協会は、これからも積極的に地球温暖化対策を進めていきます。

県内各地の様々な取り組みが大集合！

“エコレシピ”フェスタ参加者大募集

脱温暖化センターひろしまでは、県内各地から地球温暖化防止の取り組みを集め、地域の実践活動を推進することを目的に”エコレシピ”フェスタを開催いたします。地域のさまざまな脱温暖化の取り組みを知ることができるチャンスですので、皆さまぜひご参加ください。

【日　　時】平成23年1月28日（金）13：00～17：30
　　29日（土）10：30～16：00
【場　　所】広島県情報プラザ　地下２階　多目的ホール
　　（広島市中区千田町３丁目7-47）
【参加対象】地球温暖化防止活動に関心のある人
【参 加 費】入場無料
【申し込み方法】1月20日（木）までに、氏名・連絡先を
　　電話またはE-mailでご連絡ください。
【主　　催】脱温暖化センターひろしま・広島県

1日目：1月28日

県内の地球温暖化防止活動推進員から募集した、エコを意識した「エコのみ焼き」のレシピを持ち寄り、中でも特に、CO_2の削減効果があり、料理を通じて気軽に省エネに取り組めるレシピを選ぶ『エコのみ焼きコンテスト』や、”エコチャリ”をテーマとした談義会を予定しています。

2日目：1月29日

第４回エコレシピオーディション

県内各地から地域のシンボル的な一品を活かした地球温暖化防止の取り組みを集め、プレゼンテーションや活動をまとめたパネルの披露、落語家の平々亭青馬（へいへいていぶるま）氏によるエコ講座を予定しています。

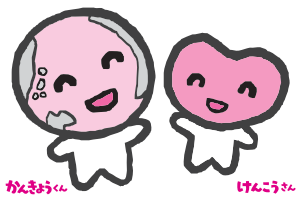
【問い合わせ】脱温暖化センターひろしま　TEL：082-293-1512　E-mail：hccca@kanhokyo.or.jp

健康感謝募金

～地区衛生組織活動資金募集～

市町別一覧表
（平成22年11月末現在）

健康感謝募金総額
52,618,697円



市町名	募金額（円）	達成率（%）
呉市	8,353,41	149.5
府中町	1,363,713	128.3
海田町	2,669,379	456.6
熊野町	1,464,950	284.7
坂町	0	0
江田島市	1,854,650	276.6
竹原市	1,814,700	278.8
大崎上島町	359,719	162.1
大竹市	2,722,300	430.9
廿日市市	3,484,052	229.8
廿日市市佐伯	442,861	180.2
廿日市市吉和	62,100	316.0
廿日市市大野	2,525,100	456.8
廿日市市宮島	214,000	497.1
安芸太田町	0	0
北広島町	1,189,315	292.8
安芸高田市	2,283,600	344.0

市町名	募金額（円）	達成率（%）
東広島市	4,201,430	114.1
三原市	1,465,140	68.2
世羅町	985,100	292.4
尾道市	1,932,000	61.0
福山市	9,987,329	107.6
府中市	1,189,400	137.3
神石高原町	347,050	166.5
三次市	1,254,108	106.0
庄原市	389,256	48.4
その他	62,229	
合計	52,618,697	148.2

※この表は、11月末までに市町公衛協事務局から募金委員会に振込みのあった実績額を示しています。

健康感謝募金は、昭和35年から実施し、今年度で51回目を迎えます。集まった募金は、募金委員会によって適正に配分され、各市町公衛協の活動資金として環境保全や保健衛生活動に役立てられています。

【健康感謝募金Ｑ＆Ａ】

Ｑ：健康感謝募金を実施するにあたり、どういうところに留意しなければなりませんか？

Ａ：健康感謝募金の目的、使途を明確にお伝えることと、公衛協活動を十分PRしましょう。

健康感謝募金は、公衛協の活動資金であり、大切な自主財源です。募金の使用にあたっては地域のためにどう使うか、何に使ったか、目的・使途を明確に示しましょう。

募金を活用した公衛協事業を行なう際には、「健康感謝募金の一部を充てて実施しています」など、ご協力いただいた住民の方に、募金はこのように還元されているということが分かるようにＰＲを行いましょう。また、総会資料などを確認し、どのような事業を実施するかを把握し、住民の方から何に使用しているのかと質問された際には「こういうねらいで、こんな事業を実施しています」と応えられるようにしておきましょう。